

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800370		
法人名	有限会社 やまさき		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ(Aユニット)		
所在地	〒859 - 4501 長崎県松浦市志佐町浦免206番地		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平屋である2つのユニットを遮る壁はなく、入居者、職員がともに自由に往来ができる事で、交流の幅が広がる。
 ・提携医療機関との医療連携体制や協力医療機関(内科、歯科)からの医師の往診を実施する事で入居者の健康 管理に努めています。
 ・提携医療機関とは別に、それぞれの入居者が以前より利用されていたかかりつけ病院を入居後も継続していただく事により、様々な場面でホームがアドバイスを受ける機会が多い。
 ・スプリンクラーや自動体外式除細動器AED等のホームの設備面の充実とともに、随時研修、勉強会を実施する事で職員の技能向上に努めています。
 ・ホームヘルパー2級の施設実習や近隣の中学校、高校の課外活動の受け入れ及び指導に協力させて頂いています。
 ・様々なボランティア団体(日本舞踊等)に慰問して頂き、入居者の方々にできるだけ楽しい入居生活を送って頂ける様取り組んでいます。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松浦市の閑静な住宅地に、平屋の立派な木造家屋で存在を示されている。内部は吹き抜けの高さが印象的で、天窓からの光が木の温もりと共に、ホーム全体を包み込んでいる。2ユニットだが、ドアなどの仕切りは見られず、職員全員が入居者の全てを把握できるような体制をとられている。経営者は、ホーム周囲の手入れや食材の買い物などもされており、介護職員と共に入居者のお世話をされている。できる限り職員と入居者が便利で過ごしやすいホームとなるように頑張られているホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に、運営者と職員が共同で、理念を作成する事で、その理念が日々のケアの実践へ反映しやすく、職員全員が統一した方針のもとにケアを実践している。	理念は開設当初から、「ひなたぼっこ」の頭文字を使った6行で、グループホームとしての独自の理念を掲げられ、最後の行に地域密着を意識した文言を平成20年に追加されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会や民生委員との交流を行い、又、中学校、高校の課外実習や民間のヘルパー養成実習、その他のボランティア等を積極的に受け入れる様努めている。	地域の幼稚園～高校、地域住民まで、幅広く交流をもたれている。昨年9月から入居者に皮膚病の感染や、インフルエンザの流行で、今まで行われていた交流を中断されていたが、再開することを明言された。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に対する理解や支援の方法について入居者の御家族及び関係者への働きかけは、常に行っているが、その他の地域の方に対しては至っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に会議を開催し、ホームからの状況報告や、今後の方針等について意見交換を行っている。その中で、外部委員からの提案、意見により、サービスの向上につながった面もある。	2ヶ月に1回開催されているが、殆どがホームからの報告になっている。	地域への貢献につなげる「介護教室」開催や、ホーム行事の見学など話し合いながら、角度を変えた会議のあり方を検討されることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議における行政の代表の委員や、生活保護受給者の担当職員とは常に情報交換を行っており、又、居宅介護支援事業者連絡協議会への職員の参加により、ホームの運営等に関し、アドバイスを頂いている。	運営推進会議の内容について、行政担当者との連携を取られていくことで、更なる協力体制を築いていく意向を示されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、日中常に施錠を行わずに解放しており、入居者が庭、洗濯物干し場等へ自由に行き来出来る様配慮している。ただし、夜間に限り、御家族の同意の下、転落防止の為、ペット柵の使用を行っている。	反射的な受け答えや態度に、入居者によっては「きつい言葉」と受け取られることも考慮した対応となるように励まれている。身体拘束廃止推進員養成の研修を受けるなど、職員の意識向上と、勉強会などの研修で周知するように計画されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はスタッフ会議や日々の業務を通して、お互いのケアや接遇を確認し合い、必要があれば改善に努めている。又、入居者の心身の状態把握に努め、その意見には、素直に耳を傾ける様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在において活用の場面はないが、契約時や入居後の中で必要であれば、関係者に対し、提案できるよう準備に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事前にホームの概要やケアの方針について充分説明を行い、又、入居後の変更事項等については書面と面談による理解、納得を図る様努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に目安箱を設置するとともに、面会の機会を利用し、意見、希望、苦情等をくみ上げることができている様声かけを行っている。又、運営推進会議の中で、家族会の代表者の方からの委員として意見等を拝聴している。	運営に関する家族からの意見は殆どないが、家族が地域の行事について、情報を提供されている。ホーム内外の行事に参加された家族から、運営に関する要望や意見を聞き取る機会と考えることで、サービスの質の向上につながられる意向が窺えた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議をその機会として、それぞれの立場からの意見をくみ上げる場としている。又、必要があれば、代表者及び管理者との個別面談も実施している。	研修にはなるべく参加できるような体制で取り組まれており、研修や勉強会などを通じた職員の質の向上を図られている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も管理者や職員と共に、業務に従事している事で、直接個々の勤務状況が把握でき、その要望もホームの改善に反映しやすくなっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の研修を積極的に奨励しており、必要があれば、面談やアドバイスを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の居宅介護支援事業者連絡協議会に加入し、職員が勉強会や、その他の事業所との交流に参加できる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や契約時の面談において、ホームの概要等について、充分説明を行うと共に本人からの要望、不安等を拝聴把握し、支援に反映する様努めている。又、希望があれば昼間の体験利用及び行事への参加も行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時において、御家族の要望、不安等を拝聴、把握すると共に、ホームの概要や入居中の支援及び、手続き等についても十分に説明を行う様努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談において、本人及び御家族の要望を伺うと共に、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば、他の事業所及び医療機関を勧める。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食堂の準備や配膳等を入居者と職員が協働して行い、特に料理を得意とされる方には、下ごしらえや、味付け等の役割を担って頂いている。又、洗濯物干しや、衣類のたたみを手伝って頂いたり、職員の見守りの下、他の入居者のお世話をさせて頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事等への御家族の参加の支援を依頼すると共に、日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場面においては、面会、外出等の協力をお願いし共に支えて頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけではなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いすると共に、地域の行事(お祭り文化祭等)への参加を積極的に行っている。	家族が墓参りに連れていかれることや、地域の行事参加で、顔馴染みの知人や近所の方と顔を合わせる機会とされている。又、友人にホームに訪問してもらうことも、家族に協力をお願いされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事なく本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事ができる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて一時退居された方でも、本人、御家族の要望があれば再入居に応じている。又、以前利用された方御家族との関係も継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より入居者との関わりの中で、本人の希望、意向の把握を行い、その実現に努めている。又、職員の側からも様々な提案を行う事で、豊かな入居生活を送って頂ける様配慮している。	自室にいる時間を好まれる入居者がいたり、暖かいサンルームで、のんびりと過ごされるなど入居者の意向に沿いながら、職員も寄り添う事で、それぞれの思いを把握するように努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族に対する入居前の面談やそれまで利用されていた関係機関との情報交換に努め、入居生活の援助に活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員が本人や御家族の意向を下に介護計画を立案、スタッフ会議やミニカンファレンスにおいて、他の職員とも協議の上作成している。	入居者に対する職員の担当制をとられている。介護計画への家族の意見を反映し、チェックシートを活かした介護計画の見直しが不十分である。	カンファレンスや日々の記録を計画作成担当者が、見直しにつなげやすくするためには、どうすれば良いかを職員間で検討し、現状に即した介護計画とされることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画に沿って日々の様子や援助及びその結果について、個別記録に記載しその他の情報については、口頭での情報交換や申し送りノートを活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じ、買い物支援を行ったり、定期的な床屋の来所を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が参加されている踊りの慰問の受け入れや、周辺の中学校、高校の依頼に応じ生徒の課外活動の場を提供している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者も以前からのかかりつけ医との関係を継続し、本人が安心して入居生活を送れる様医療機関との連携を図っている。	入居者それぞれのかかりつけ医との連携を維持されている。市内の病院は職員が連れて行くことが多い。市外の病院には家族と相談しながら家族が連れて行かれることが多い。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム在職の看護師が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。又、協力医療機関との医療連携体制による週1回の看護師の問診も含め、入居者の健康管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に入居者の受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人や御家族に看取りの支援体制について説明を行い同意を得ている。	協力医療機関と医療連携をとり「看取りの指針」がある。入居時に説明し同意書をとられている。主治医が家族に段階的な説明をされて、ホームとしてできる範囲のことをする意向を示されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の業務において看護師の指導の下、急変時の対応について訓練を行うと共に、職員個人としても普通救命講習を受講し、入居者の急変時に備えている。又、年2回、防火訓練を実施しており事故発生等に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署や民間のアドバイザーの指導の下、防火訓練を行うと共に、近隣の住民の方々への協力依頼を行っている。	消防署対応で年1回、警報機械類のメンテナンス業者の指導で防火訓練が行われている。近所の方には文書で協力依頼をされており、自然災害については徐々に取り込まれる方針がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉かけを行っているが、常に、相手の反応に注意を払い、人格の尊重に配慮する様努めている。	ひとり一人に合った言葉掛けや入居者の尊厳を損なうことがないように配慮されている。また、馴れ合いから出る言葉や態度や行動に注意されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できるだけ本人が自ら意思を持って動く事ができるような機械をつくり、援助や指示的な言葉かけは必要最低限に留めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、職員が買い物支援を行うと共に御家族とも相談の上、服装等の準備を依頼している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入居者の能力や得意分野を生かし、調理の手伝いや配膳準備において関わって頂いている。又、食事は毎食、入居者と職員が同じテーブルを囲み家庭的な雰囲気に努めている。	料理が得意な入居者がおり、気分が向いたときには、下ごしらえや配膳など手伝われている。誕生日には献立の工夫や楽しみも含めて、希望を聞くが興味を示される事が少ない。職員も同じテーブルで同じ食事をされ和やかな雰囲気がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事のメニューでは、個々の好み摂取能力に応じ、代替の献立や、おかゆ、キザミ食等の調理方法を工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており、入居者の摂取能力の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導を行うと共に、個人の排泄パターンを把握し、その方に応じた誘導方法を行っている。又、尿意、便意の表出が困難な方に対しても、トイレでの排泄を試み自然排便を促す様努めている。	夜間はポータブルトイレを使われる方が多いが、日中は布パンツを使用し、時間を決めてさりげなくトイレへ誘導されている。尿便意がはっきりしない方もトイレでの排泄習慣をつけるためトイレ誘導が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限りトイレでの排泄を働きかけると共に、水分や食物繊維の充足等の食事面の配慮も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回ではあるが、2ユニットで週4回お風呂を沸かし、できるだけ個々の希望に沿える様配慮している。又、皮膚の疾患への処置や清潔保持が必要な方に対しては、前記以外の場合でもシャワー浴や足浴で対応している。	入浴は1ユニット週2回で、皮膚疾患がある方は、毎日清拭後に軟膏塗布をされている。清潔保持のためのシャワーはいつでも使えるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室には冷暖房機器が設置してあり、快適な環境で睡眠出来るよう配慮している。又、夜間眠りが浅い方に対しては、職員がお茶を準備したり、話し相手を努める事で不安を取り除く様になっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からの薬に関する指示や説明書について、常に理解、把握に努め日々の入居者の状態を確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前、農業や調理師をされていた入居者に庭の菜園へのアドバイスを頂いたり、魚の調理を手伝って頂いている。又、個々の入居者それぞれに可能な範囲で、洗濯物干しや衣類たたみ、食事の後方付け等に参加して頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の入居者の希望に応じ、買い物支援を定期的に行うと共に、入居者や御家族、地域の方々からの情報を下に地元の催し物等への参加を積極的に行う様努めている。	ホーム周囲の散歩は天気の良い日にされている。月1～2回買い物の日を決めて、お金の所持ができる方は職員管理の下で買い物をされている。遠出は時々されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭の管理が可能な方は、職員の係わりの下、手元に持っておられ定期的に職員と共に買い物に出かけられている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所内の電話を利用して頂いたり、手紙の投函を支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天窓により自然光を取り入れており、玄関や和室、応接室には一年中生花が飾られている。又、廊下の壁には行事の写真や入居者、職員の作品が掲示されていて季節感を醸し出している。	ホームの建物全体が木造のゆったりとした空間を醸し出されている。天窓からは光と共に暖かさが伝わってくる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス、応接室より静かに景色を眺められたり、庭のテーブルやマッサージチェアでくつろがれている様子が見られる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が自宅等で使い慣れた家具や寝具、生活用品を入居後もそのまま使用して頂いている。	仏壇なども持ち込まれている部屋もある。各部屋の大きさに合わせた、馴染みの品を持ちこみ、入居者の個性が分かる居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には段差はなく、手すりを多く設置することで一人でも各場所への移動が容易にできるよう配慮している。又、トイレ、浴室、洗面所の入り口には表札、入居者の居室の入り口にはそれぞれ異なった飾りを目印として取り付け分かりやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800370		
法人名	有限会社 やまさき		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ(Bユニット)		
所在地	長崎県松浦市志佐町浦免206番地		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年3月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての利用者が		
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に、運営者と職員が共同で、理念を作成する事で、その理念が日々のケアの実践へ反映しやすく、職員全員が統一した方針のもとにケアを実践している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会や民生委員との交流を行い、又、中学校、高校の課外実習や民間のヘルパー養成実習、その他のボランティア等を積極的に受け入れる様努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に対する理解や支援の方法について入居者の御家族及び関係者への働きかけは、常に行っているが、その他の地域の方に対しては至っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に会議を開催し、ホームからの状況報告や、今後の方針等について意見交換を行っているその中で、外部委員からの提案、意見により、サービスの向上につながった面もある。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議における行政の代表の委員や、生活保護受給者の担当職員とは常に情報交換を行っており、又、居宅介護支援事業者連絡協議会への職員の参加により、ホームの運営等に関し、アドバイスを頂いている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、日中常に施錠を行わずに解放しており、入居者が庭、洗濯物干し場等へ自由に行き来出来る様配慮している。ただし、夜間に限り、御家族の同意の下、転落防止の為、ペット柵の使用を行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はスタッフ会議や日々の業務を通して、お互いのケアや接遇を確認し合い、必要があれば改善に努めている。又、入居者の心身の状態把握に努め、その意見には、素直に耳を傾ける様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在において活用の場面はないが、契約時や入居後の中で必要であれば、関係者に対し、提案できるよう準備に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事前にホームの概要やケアの方針について充分説明を行い、又、入居後の変更事項等については書面と面談による理解、納得を図る様努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に目安相を設置するとともに、面会の機会を利用し、意見、希望、苦情等をくみ上げることができる様声かけを行っている。又、運営推進会議の中で、家族会の代表者の方からの委員として意見等を拝聴している		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議をその機会として、それぞれの立場からの意見をくみ上げる場としている。又、必要があれば、代表者及び管理者との個別面談も実施している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も管理者や職員と共に、業務に従事している事で、直接個々の勤務状況が把握でき、その要望もホームの改善に反映しやすくなっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の研修を積極的に奨励しており、必要があれば、面談やアドバイスをを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の居宅介護支援事業者連絡協議会に加入し、職員が勉強会や、その他の事業所との交流に参加できる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や契約時の面談において、ホームの概要等について、充分説明を行うと共に本人からの要望、不安等を拝聴把握し、支援に反映する様努めている。又、希望があれば昼間の体験利用及び行事への参加も行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時において、御家族の要望、不安等を拝聴、把握すると共に、ホームの概要や入居中の支援及び、手続き等についても充分に説明を行う様努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談において、本人及び御家族の要望を伺うと共に、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば、他の事業所及び医療機関を勧める。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食室の準備や配膳等を入居者と職員が協働して行い、特に料理を得意とされる方には、下ごしらえや、味付け等の役割を担って頂いている。又、洗濯物干しや、衣類のたたみを手伝って頂いたり、職員の見守りの下、他の入居者のお世話をしている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事等への御家族の参加の支援を依頼すると共に、日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場面においては、面会、外出等の協力をお願いし共に支えて頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけではなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いすると共に、地域の行事(お祭り文化祭等)への参加を積極的に行っている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事なく本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事ができる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて一時退居された方でも、本人、御家族の要望があれば再入居に応じている。又、以前利用された方御家族との関係も継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より入居者との関わりの中で、本人の希望、意向の把握を行い、その実現に努めている。又、職員の側からも様々な提案を行う事で、豊かな入居生活を送って頂ける様配慮している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族に対する入居前の面談やそれまで利用されていた関係機関との情報交換に努め、入居生活の援助に活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員が本人や御家族の意向を下に介護計画を立案、スタッフ会議やミニカンファレンスにおいて、他の職員とも協議の上作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画に沿って日々の様子や援助及びその結果について、個別記録に記載しその他の情報については、口頭での情報交換や申し送りノートを活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じ、買い物支援を行ったり、定期的な床屋の来所を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が参加されている踊りの慰問の受け入れや、周辺の中学校、高校の依頼に応じ生徒の課外活動の場を提供している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者も以前からのかかりつけ医との関係を継続し、本人が安心して入居生活を送れる様医療機関との連携を図っている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム任職の看護師が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。又、協力医療機関との医療連携体制による週1回の看護師の問診も含め、入居者の健康管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に入居者の受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人や御家族に看取りの支援体制について説明を行い同意を得ている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の業務において看護師の指導の下、急変時の対応について訓練を行うと共に、職員個人としても普通救命講習を受講し、入居者の急変時に備えている。又、年2回、防火訓練を実施しており事故発生等に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署や民間のアドバイザーの指導の下、防火訓練を行うと共に、近隣の住民の方々への協力依頼を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉かけを行っているが、常に、相手の反応に注意を払い、人格の尊重に配慮する様努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できるだけ本人が自ら意思を持って動く事ができるような機械をつくり、援助や指示的な言葉かけは必要最低限に留めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、職員が買い物支援を行うと共に御家族とも相談の上、服装等の準備を依頼している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入居者の能力や得意分野を生かし、調理の手伝いや配膳準備において関わって頂いている。又、食事は毎食、入居者と職員が同じテーブルを囲み家庭的な雰囲気に努めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事のメニューでは、個々の好み摂取能力に応じ、代替の献立や、おかゆ、キザミ食等の調理方法を工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており、入居者の摂取能力の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導を行うと共に、個人の排泄パターンを把握し、その方に応じた誘導方法を行っている。又、尿意、便意の表出が困難な方に対しても、トイレでの排泄を試み自然排便を促す様努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限りトイレでの排泄を働きかけると共に、水分や食物繊維の充足等の食事面の配慮も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回ではあるが、2ユニットで週4回お風呂を沸かし、できるだけ個々の希望に沿える様配慮している。又、皮膚の疾患への処置や清潔保持が必要な方に対しては、前記以外の場合でもシャワー浴や足浴で対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室には冷暖房機器が設置しており、快適な環境で睡眠出来るよう配慮している。又、夜間眠りが浅い方に対しては、職員がお茶を準備したり、話し相手を努める事で不安を取り除く様にしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からの薬に関する指示や説明書について、常に理解、把握に努め日々の入居者の状態を確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前、農業や調理師をされていた入居者に庭の菜園へのアドバイスを頂いたり、魚の調理を手伝って頂いている。又、個々の入居者それぞれに可能な範囲で、洗濯物干しや衣類たたみ、食事の後方付け等に参加して頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の入居者の希望に応じ、買い物支援を定期的に行うと共に、入居者や御家族、地域の方々からの情報を下に地元の催し物等への参加を積極的に行う様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭の管理が可能な方は、職員の係わりの下、手元に持っておられ定期的に職員と共に買い物に出かけられている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所内の電話を利用して頂いたり、手紙の投函を支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天窓により自然光を取り入れており、玄関や和室、応接室には一年中生花が飾られている。又、廊下の壁には行事の写真や入居者、職員の作品が掲示されていて季節感を醸しだしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス、応接室より静かに景色を眺められたり、庭のテーブルやマッサージチェアでくつろがれている様子が見られる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が自宅等で使い慣れた家具や寝具、生活用品を入居後もそのまま使用して頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には段差はなく、手すりを多く設置することで一人でも各場所への移動が容易にできるよう配慮している。又、トイレ、浴室、洗面所の入り口には表札、入居者の居室の入り口にはそれぞれ異なった飾りを目印として取り付け分かりやすくしている。		